

お互いを尊重し合える美しい社会のために

ある日、ふと友人の会話を聞いていると、「かわいそう」という言葉が耳に入ってきました。道ばたで車いすに乗って通り過ぎた人を見てポロッと出た言葉でした。

私はこの言葉を聞いてモヤモヤとした気持ちとほんの少しの嫌悪感と「どうしてかわいそうなんて言葉を遣ったのだろう」という疑問が生まれました。なぜなら、私はこの言葉が無自覚の差別やへん見と感じたからです。

おそらく、自分自身の足で歩いたり、走ったりできる「普通の生活」ではないことに対して、きっと幸せではないに違いないという先入観から出た言葉だと思います。しかしながら、立ち止まって考えてみると、誰にとっての「普通の生活」なのでしょう。

人は、生まれながらにして誰もがおかすことのできない「基本的人権」というものを持っています。

基本的人権とは、人が人間らしく生きるための生まれながらに持っている権利のことです。具体的には、差別やへん見を受けることがなく、社会の一員として認められることや、健康で文化的な生活を送るために必要な支援を受けられることなどです。

私は、これらを実現するためには「普通」という基準を作らない社会が必要だと考えています。普通という基準を作ってしまうことによって、基準に当てはまらなかった人が、「異常」や「例外」とみなされ、差別されてしまうといった問題が生じてしまう可能性があるからです。また、差別やへん見を受けることなく安心して生きられる社会の実現には「平等」にも意識を向けなければならないと考えます。

私は、日々の生活の中で、みんな「平等なあつかい」と、「同じあつかい」が時と場合に応じて使い分けられていることに気がつきました。

私が小学生のころ、日本語を全く話すことができない海外からの転校生が何人かいました。転校生達は日本人の私達と同じ日本語で書かれたテストを受けていましたが、タブレットのほん訳機能を使ってもよいという特別なルールがありました。また、ほん訳が上手くいかない場合には、先生達のサポートを受けてもよいというルールもありました。日本人の私達と、外国人の転校生達が同じテストを受ける取りあつかいの方で、物事を達成するための手段や方法が工夫されて、転校生達は「平等なあつかい」を受けていたようです。このように、「平等なあつかい」と「同じあつかい」は様々な場面で考えて使い分けることが

大切だと思います。

さらに私は、ある人の人権を強く守ろうとすると、別の人の人権をしん害してしまう場合や、社会全体の議論の場がせまくなってしまう危険性があると思っています。守ろうとする人権のアンバランスさによって、守られるべき人が誰なのかをあいまいにさせてしまったり、適切な批判や議論がしづらくなってしまうことにつながります。このような状態が続くと、声の大きい側ばかりが守られるようになり批判や疑問が悪意とされ発言しづらくなる場合が出てきてしまうことから、守られすぎる人権もあまり良くないのではないのでしょうか。

私は、見た目や能力、考え方など、一人一人が違っているからこそ、たくさんの価値観が共存し、お互いを尊重し合える「美しい社会」を作ることができると思います。しかしその一方で、「違い」が時に差別やへん見につながってしまう現実があることも忘れてはいけません。私は全ての人が安心して自分らしく生きることができる世界をあきらめたくありません。だからこそ、これからも人権についてしっかり考え、真剣に向き合っていきたいと思います。この努力の積み重ねが、優しく美しい社会につながると信じています。